

撮影/トム岸田



午前10時の開場を待つたくさんのお客さま

第27回「大刀剣市」を顧みる

秋たけなわの十一月一日(三日月)、東京新橋の東京美術倶楽部において、第二十七回「大刀剣市」が開催されました。

第一回の開催は昭和六十三年にさかのぼりますが、産経新聞社・フジサンケイビジネスアライの両社には毎年後援を頂いてきました。今回の出店も北は北海道、南は九州熊本まで七十四に及び、それぞれがブースの飾り付けに創意工夫を凝らしていました。来場者は、初日雨天にもかかわらず一九〇名、二日目は九七二名、最終日七八〇名を数えました。全国各地からおいでくださったお客さまには、誠に感謝に堪えません。

大刀剣市の開催に当たっては、早くも六月中旬に理事長名で実行委員を委嘱し、実行委員会を立ち上げました。七月中旬からは具体的な作業を開始し、後援の依頼、カタログ掲載商品の集荷、その撮影と返却、ブース割り付け、カタログ編集作業、海外のお客さまへの英文解説作成、ホームページのお知らせ、また同時開催の重文室展示品の選定と借用お願い、広報としては公益財団法人日本美術刀剣保存

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

刀 剣 界

2015.1.15 No.21

発行人 深海 信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
<http://www.zentosho.com/>

第21号編集担当

赤荻 稔	朝倉 忠史	飯田 慶雄	伊波 賢一
大西 芳生	大平 将広	川島 貴敏	嶋田 伸夫
清水 儀孝	生野 正	新堀 賀将	瀬下 明
土子 民夫	網取 譲一	土肥 富康	服部 暁治
深海 信彦	松本 義行	賀賀 真吉	持田 具宏



会場の東京美術倶楽部

協会発行の『刀剣美術』や『産経新聞』『読売新聞』『日刊スポーツ』などへの広告、組合社会貢献、パブリシティと続きました。

十月二十三日には、初めての大刀剣市出店者事前打ち合わせ説明会を開催、各担当者からきめ細かい説明がなされ、併せて出店者・関係者間のコミュニケーションを図ることができました。そして、さまざまな準備をして迎えた大刀剣市初日。朝礼は事前打ち合わせ説明会のおかげで十分足らずで終了、余裕あるオープンとなりました。

午前10時、最初に受付を済ませたお客さまの二団が、まずは四階会場の各店舗に到着、お目当ての商品を探していました。三階会場は少しタイムラグがあ

ったものの、一時間もするとお客さまで賑わっていました。

三階重文室では、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にちなんで、「黒田官兵衛とその時代の刀工達」と題する展示会を同時開催しました。重文室担当役員の努力で、室町末期の刀剣・刀装具のうち、近年ではまれに見る名品・優品を展示し、多数の来場者に大好評を博しました。

四階では恒例の「我が家のお宝鑑定」が行われ、理事が二人一組で鑑定に当たりました。依頼者は伝家の名品や珍品にまつわる思い出話に花を咲かせた後、鑑定人の評価や所見に一喜一憂していました。

また同じフロアでは、全日本刀匠会所属の刀匠が小品の展示や、銘切りの実演を兼ねて文鎮銘切りの注文を受けるなど、お客さまとのコミュニケーションを図っていました。これからも出店ブースを大いに活用し、来場者に喜ばれるイベントを企画していただくことを希望します。

組合では今年も社会貢献の一助として、産経新聞社の呼びか



休憩コーナーはご覧の通り満席

なほ、次回の第二十八回大刀剣市は十一月二十日(金)〜二十二日(日)、東京美術倶楽部にて開催する予定です。本年も相変わらぬご支援をよろしくお願ひします。

(大刀剣市) 実行委員長・清水 儀孝)

ける「明美ちゃん基金」(難病に苦しむ子供たちを救う運動)に協賛し、会場にて募金をお願いしました。ご協力いただいたご来場者さま、出店者・組合員の皆さま、浄財をありがとうございました。皆さまの善意三十万円は去る十二月十七日、産経新聞社事業局にお届けしてまいりました。

私たち全国刀剣商業協同組合は、大刀剣市を通じて刀剣に携わる皆さまとともに刀剣の普及啓蒙に貢献し、社会の信頼と地位向上を実現することを目指して邁進してまいります。今後とも、大刀剣市をよろしくお願ひします。

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0258-33-8510
 FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
 年間10回位発行予定
 購読料10回 2,000円 (郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-5310
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
 TEL 〇八六一二二二二二二
 工房 岡山市北区磨屋町七二二
 TEL 〇八六一二二二二二二
 FAX 〇八六一二二二二二二

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL 〇四九四一三三三〇六七
 FAX 〇四九四一三三三〇六七

美術刀剣、小道具、武器類の
 売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
 TEL 〇六一六六三一三二二〇
 FAX 〇六一六六四四一五四六四



組合の甲冑コーナーをのぞく



刀匠たちの銘切りに興味津々



重文室の「黒田官兵衛とその時代の刀工達」展

報告 「黒田官兵衛とその時代の刀工達」展

二〇一四年の「大刀剣市」の特
別展示は「黒田官兵衛とその時代
の刀工達」と題し、刀八点、脇指
一点、短刀二点、槍四点、薙刀二
点、拵三点、鐔十五点が出品され
ました。

官兵衛の生きた時代の気風を伝
える刀の素晴らしさ、槍・薙刀の
凄み、刀装・刀装具の美を堪能
し、歴史談義に花を咲かせる方も
あり、場内は例年以上に熱気に包
まれていました。

さて、刀は備前祐定が多く展示
されました。「黒田筑前守殿御所

持」と金象嵌銘のある與三左衛門
尉祐定をはじめ、彦左衛門・新拾
郎ら、銘鑑で名前が知られていて
もあまり遺作のない祐定の作も出
品され、しかもいずれも出色の出
来栄えを示していました。「こう
いうのを見るとわくわくするな
あ」との声も上がっていました
が、未備前のお好きな方々にとっ
ては、まさに痺れるような展示だ
ったようです。

この注文した武士の名が刻された
武州下原照重の刀、さらに堀川
国広と門人正弘の薙刀と短刀、九
州肥後同田貫、尾張兼武、そして
下坂兼先の大身槍が展示されまし
た。いずれも戦国から江戸初期の
時代の気風を伝える名品でした。
また黒田家の家紋入りの拵が付さ
れた清人の明治年紀の薙刀は、黒
田家が終始一貫して武の備えに怠
りがなかったことを、あらためて
教えてくれる貴重な資料でした。

されました。人間国宝だった隅谷
正峯先生が鍛え、吾口仙秀先生が
俱利伽羅龍の彫りを施された刀剣
博物館竣工記念打ちです。本歌顔
負けの迫力ある槍で、こうした槍
を自由自在に操った戦国武士の雄
姿が目につかぶようでした。また
黒田家の家紋入りの大小拵と系巻
太刀拵も、筑前福岡五万石を治
めた大名黒田家の豪華絢爛を偲
ばせるには十分でした。

庄巻は名鐔十五点でしょう。黒
田家伝来の安親作の帰雁苦舟図鐔
と李白観瀑図鐔、金家の塔山水図
（重美）、そして官兵衛の時代の鐔
として、埋忠明寿在銘の九年母図
鐔、車透図鐔や波濤図鐔など重厚
な鉄の魅力横溢の信家の作品、そ
して山城国伏見住金家の月見舟
図・達磨図・山水図・独釣図・山
水樵夫図・野晒図・騎牛帰家図な
ど代表作の数々。「本で見たこと
のあるあの鐔」の实物がガラスケ
ース内にずらりと並んだ様子は、
壮観そのもの。まさに至福の一時
となりました。

「黒田官兵衛とその時代と刀工達」 出展作品

【刀剣】	
刀	銘 備前國住長船祐定作(彦兵衛尉) 永正十年二月吉日(重要刀剣)
脇指	銘 備前國住長船与三左衛門尉祐定作(金象嵌) 黒田筑前守殿御所持 袈裟落 切手中川左平太(花押)
刀	銘 備前國住長船与三左衛門尉祐定作 天文五年八月吉日(重要刀剣)
刀	銘 備前國住長船孫右衛門尉清光作之 永禄五年八月大吉日(重要刀剣)
刀	銘 備前國住長船彦左衛門尉祐定作 天正元年八月吉日(重要刀剣)
刀	銘 備前國住長船新拾郎祐定作 天正五年八月吉日
刀	銘 相州住綱廣
刀	銘 相州住綱廣(重要刀剣)
刀	銘 武州下原住山本源二照重 鈴木作右衛門打之
短刀	銘 國廣(重要刀剣)
短刀	銘 藤原正弘(大隅掾)(重要刀剣)
大身槍	銘 九州肥後同田貫源左衛門
大身槍	銘 下坂住兼先作
大身槍	銘 尾州住兼武
薙刀	銘 山城國住信濃守藤原國廣造(重要刀剣)
薙刀	銘 豊前守藤原清人造之 明治二年八月日 号諸薙 附黒漆塗家紋蒔絵鞘薙刀拵入
大身槍	銘 謹呈鈴木嘉定先生刀剣博物館竣工記念 加賀國住人隅谷正峯 吾口仙秀彫之(花押) 昭和丁未霜月吉日 追日本号 寒山(花押)(公益財団法人日本美術刀剣保存協会蔵)
【拵】	
	金梨子地三藤巴紋散金蒔絵金貝鞘糸巻太刀拵(重要刀装)
	金梨子地餅・藤巴・葵紋散金蒔絵金貝鞘糸巻太刀拵(重要刀装)
	夜桜塗黒漆黒田藤巴・白餅紋散鞘大小拵(重要刀装)
【黒田家伝来の鐔】	
帰雁苦舟図鐔	銘 安親(黒田家伝来)(重要刀装具)
李白観瀑図鐔	銘 安親(黒田家伝来)(重要刀装具)
【官兵衛の時代の鐔】	
九年母図鐔	銘 埋忠明壽(重要刀装具)
車透図鐔	銘 信家(重要刀装具)
波濤図鐔	銘 信家(重要刀装具)
葛唐草図鐔	銘 信家
波龍図鐔	銘 信家
野晒図鐔	銘 城州伏見住金家(特別重要刀装具)
騎牛帰家図鐔	銘 城州伏見住金家
塔山水図鐔	銘 山城國伏見住金家(特別重要刀装具)
月見舟図鐔	銘 山城國伏見住金家(重要美術品)
達磨図鐔	銘 山城國伏見住金家(重要美術品)
山水図鐔	銘 山城國伏見住金家(重要美術品)
独釣図鐔	銘 山城國伏見住金家
山水樵夫図鐔	銘 山城國伏見住金家(重要刀装具)

海外の愛刀家から見た「大刀剣市」

海外には明治初期以来、日本刀
愛好家が存在していた。当時来日
した外国人は、開港していた横浜
や神戸の新興都市で、日本刀を求
めることができた。日本人も外国
人の購買意欲を満たすため、刀剣

類を扱う店をこれらの地に開業し
た。
日本刀・刀装具・甲冑を大量に
収集した外国人もあり、そのコレ
クションをポストン美術館や大英
博物館などの有名なミュージアム

に寄贈する者も現れた。特にアメ
リカとヨーロッパには、二百五十
年間徳川幕府の政策によって閉ざ
されていた国の文化と美術に、高
い関心を持つ人が少なからずいた
のである。

しかし、日本刀と刀装具に対す
る関心が若者の間で大いに高まっ
たのは、第二次世界大戦後、連合
国軍の日本占領が終了した後のこ
とである。そのきっかけとなった
のは、日本に駐留していた将兵が
本国に帰還する際、多数の刀剣と
刀装具を持ち帰ったことである。
東京などの大都市には当時、進

駐軍を相手に刀剣を扱う業者がお
り、刀剣や刀装具をお土産として
格安で入手できた。
ご存じの通り、日本は戦後驚異
的な経済復興を成し遂げ、昭和時
代の後半には多くの日本人刀剣商
が海外、特にアメリカとヨーロッ
パに渡って、日本から大量に流失
した刀剣類を買い戻すことになっ

撮影/トム岸田



「我が家のお宝鑑定」は今年も大盛況



抽選会で見事当選したお客さま



海外からの来場者をテレビが取材

評判の定着した観のある「我が家のお宝鑑定」は、今年も会期中の三日間にわたり行われました。昨年は危うく台風直撃を免れましたが、今年は初日に雨にたたられてしまいました。

私に関して言えば、鑑定会のお手伝いは昨年の経験もあるので、心に多少の余裕を持って望みました。

そもそも「我が家のお宝鑑定」は、依頼者の要望により品物の鑑定や評価を行うもので、これらは

「我が家のお宝鑑定」に参加して

一切無料。売却を希望される場合は、あらかじめ組合事務所にてやりとりが行われ成約、という仕組みになっています。

今回の受付数は、三日間で九十九件でした。昨年は百十五件でしたので、一割強減っています。一件当たりの点数も、刀に関して言えば一振のみというのがかなりありました。昨年の対応がやや慌ただしかったの比べると、今回は滞りなく全うできたこと、係員一同自負できそうです。

「お宝鑑定」には毎回参加しているという方が十三人おり、三日間とも何かを持参してきた強者が二人いました。

私がお相手した方に限って言えば、やはり最近入手した品物の真偽と評価が気になっているようでした。中には自慢げに見せに来た方もいましたが、ちなみに売却希望は十五件でした。

初参加の方々に「このお宝鑑定を知ったのは？」と伺ったところ、新聞広告がトップで、次がインターネット

ネットでした。ほかに出店者の案内、日本美術刀剣保存協会や友人の紹介があり、教育委員会から紹介されたという方もおられました。エピソードを一つ。

中年の婦人が今ほじご主人の遺愛の刀を持参され、売却したい旨を告げた後、刀に合掌してポロポロと涙を流し始めました。その様子に、応対していた清水専務理事も私も思わずホロリとしてしまいました。

来年はどんな方が見え、どんなお宝が現れるやら…。楽しみでもあり、プレッシャーでもあり…。

(赤荻 稔)

た。当時のこのような刀剣類の国際取引は、関係者に巨大な利益をもたらしたと言われる。この時期はしばしば日本刀の「グレート・ゴールドラッシュ」と呼ばれる。

また、この時期から英文による専門的な刀剣書が発行されるようになり、ヨーロッパとアメリカで発足した多くの刀剣会の活動を後押しした。これらの刀剣会は、売買による利益のための組織ではなく、刀剣類の勉強とともに収集と鑑賞を目的とするものであった。現在でもこれらの刀剣会の多くは、勉強会を定期的に開催し、活動を続けている。

また、日本刀鑑賞に新しいテクノロジーが導入され、さらに若い世代のコレクターを引き込むことになるであろうと期待している。

「大刀剣市」が初めて開催されて以来、日本を訪れる外国人にとっては、刀剣類の名品を手にとって鑑賞する好機に恵まれると同時に、それらを購入することも可能になった。最近では、残念ながら海外での刀剣ショーの開催が少なくなり、あってもその規模が小さくなり、質的にも低下しているように思える。現在、大刀剣市のような大規模で質の高い刀剣

ショーは、海外には存在しない。毎年秋に開催される大刀剣市は、NBTHK(日本美術刀剣保存協会)の鑑定証が付く状態の良いい刀剣が、多くの選択肢の中から自由に買い求めることができる。たない機会が、われわれ海外コレクターにとってはこの上ないメリットである。

刀剣商の中には、外国人が店舗の前に立って、購入する気もないのに、いろいろな商品を見せてくれるというのには、驚かされている。「時間の無駄」と考える方がいるのもよく理解できるし、それを責めることはできない。しかし、彼らは、いつもそこから何かを学ぼうと必死なのだ。そして次回、大刀剣市を訪れたときには、彼らの鑑賞眼も上がり、前回受けた親切な対応を忘れずに、その店から刀を購入するというにもなるであろう。

現実には、今回の大刀剣市においてはかなりの数の外国人が、高額の刀剣や鐔を購入していたように思われる。

大刀剣市を訪れるほとんどの外国人は、刀剣類の扱いについてはよく訓練されている。従って、刀剣商の皆さんは、彼らが商品を損

なうような事故を起こす危険を抱く必要はないと思う。彼らにとって、大刀剣市のためにわざわざ日本に来ること自体が相当な経済的負担だから、事故を起こして無駄な出費を負うのは愚の骨頂である。

大刀剣市を訪れる外国人は、単に刀剣類を見たり買ったりするだけでなく、日本に関するイベントにも関心を持ち、それに参加し、内外の人々と交流を持つことができるのも大きな喜びと感している。

今回は、私を含む英国、アメリカ、フランス、ドイツ、スウェーデン、オーストラリア、南アフリカからの参加者があった。刀剣商の皆さんには、このようにに世界各国からやってくる刀剣コレクターに「一層注目し、言葉の障害を乗り越え、忍耐強く将来の良いお客さんを見てくださるようお願いしたい。

最後に蛇足ながら書き添えると、外国人が刀剣類を購入するとき、それぞれのお国柄がよく発揮されるとい



刀を楽しむ筆者。大刀剣市には夫人同伴で毎年訪れている

刀剣・小道具・甲冑武具

目白 **飯田高遠堂**

代表取締役 飯田慶久

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本

松本 富夫 義行

〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**

〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先 **090-8845-2222**

代表者 高島吉童

東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

www.premi.co.jp

本阿彌光洲氏の重要無形文化財保持者認定祝賀会開かれる

研師で美術刀剣研磨技術保存会会長・公益財団法人日本刀文化振興協会理事長の本阿彌光洲氏が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されたことは本紙第十九号でお伝えしましたが、その祝賀会が十一月二十九日、東京港区のホテルオークラ東京にて開催されました。



来会者にお礼の言葉を述べる本阿彌光洲氏(撮影/トム岸田)

当日の昼間は激しい風雨でしたが、祝賀会が始まる夕刻には晴れ上がり、都心は澄んだ空気に包まれました。

会場には大勢の関係者が駆けつけ、入り口でお迎える本阿彌氏にお祝いの言葉がかけられていました。主催者によると、来場者は各界から二百五十名ほどに達したようです。刀剣関係のパーティとしては珍しく、着物姿の婦人も多く、和やかな雰囲気でした。

最初に日本刀文化振興協会専務理事の宮入小左衛門行平氏より挨拶があり、久方ぶりに刀剣界に人間国宝が誕生した経過についての話が聞かれました。続いて同協会常務理事の小野博柳氏より、本阿彌氏の経歴とこれまでに研磨された国宝・重要文化財等の刀の紹介がありました。

花束の贈呈は、子息のお嫁さんと姪御さんからで、その瞬間には会場中にシャッター音が響き渡り、本日のハイライトとなりました。

その後、ご本人より来場者への感謝の言葉がありました。本阿彌氏の張りがあり、力強く響く声は印象的でした。

しばし和気あいあいとした懇談が続いた後、日本刀文化振興協会常務理事・高山一之氏の中絶めの言葉があった、おめでたい宴はお開きとなりました。(服部暁彦)

全刀商の活動 組合交換会アラカルト

今回の活動紹介は交換会ということですが、これまでも数回取り上げられています。そこでこの度は、『刀剣界』が一般の方々にも広く読まれていることを考慮し、またセリ発句という立場から見た感想や会場風景との要請もあつたので、誠に僣越ですが、私なりにご紹介いたします。

当組合は現在二十六年になりましたが、設立時より基幹事業として交換会市場が開催され、今日に至っています。往時は上野両大師を皮切りに、下谷神社などの会場が開かれていましたが、平成十八年に現在の東京美術倶楽部での開催になりました。

原則として毎月十七日、午前十時の開会です。売り番が到着順というところもあって、早い方は八時半ごろには来場するそうです。

深海理事長の挨拶でセリが始まります。次々と品物がセリ落とされていきます。昼食を挟んで午後も行われ、品物がなくなるまで続きます。出席者は六十名から七十名、出来高はというと、残念ながらここ一、二年は減少気味です。

背景には、慢性的な品物不足というこの業界の宿命的なもののほかに、リーマン・ショック以降の

若者広場 知れば知るほど 興味湧く世界

藤田裕介(神田藤古堂)

はじめまして、藤田裕介と申します。あまり知っていただけないかと思いますが、この場を借りてご挨拶させていただきます。

私がこの業界に足を踏み入れたのは、今から七年ほど前になります。それまでは全く別の業界に属していたため、刀剣業界どころか、刀が一般的なものであるかすらも知らず、四年も経験を積みあ



近ごろは藤田裕介さんを知る人が増えている

らも知らない真正正銘の「ずぶの素人」の状態です。この世界に飛び込んでみました。

刀に加えて商いということも全く知らない赤子同然の状態です。張り出された交換会では、その迫力に恐怖すら覚えたものです。

今だから正直に話しますと、それでも三、四年も経験を積みあ

る程度のご自身に付くだろうと力をくくってました。が、とんでもない！ 刀の世界は知れば知るほど奥が深く、まだまだほんの足の先が漬かっただけの知識しか得ていません。しかし、そんな奥の深い世界だからこそ、知れば知るほど興味湧き、今では完全に刀の魅力に取りつかれてしまっている一人です。

景気の後退、愛好家の高齢化なども関係していると思います。

とはいえ、生ぶ品には活潑なやりが飛びますし、それなりの品物にも買い手は付きます。

セリ発句といっても、私の場合はほとんどセリ役ですが、これも見た目よりはキツいし、難しいし、気も使います(ホントです)。声を拾うだけで精いっぱいなのです。

この年になって正直な話、いい経験と勉強をさせてもらっています。

当会は、約二百名の組合員の総本山と言ってもいいと思います。おこがましくも言わせてもらえば、当会のシステム・ルール・マナーなどは、業界の規範となつて



多くの組合員が集う交換会



明美ちゃん基金に 刀剣組合が30万円 全国刀剣商業協同組合

(深海信彦理事長)は17日、難病に苦しむ子供を救う産経新聞社の「明美ちゃん基金」に30万円を寄付した。写真。

この寄付は、11月1〜3日に港区新橋の東京美術倶楽部で開催された刀剣の展示即売会「第27回大刀剣市2014」に出店した組合員と入場者から寄せられた。清水儀孝専務理事は「明美ちゃん基金を知り、組合では第1回の展示即売会(平成2年)から募金を集め寄付してきました。難病に苦しむ子供たちに役立ててほしい」と話した。

ことを記させてください。

この業界に携わるに当たり、当初は、いかにして刀剣商を生業としていけばよいかを思索する毎日でした。この刀は果たしてどれほどの価値があるのだろうか、ニーズはどれほどあるのだろうか、と。しかし、そのようにして刀に触れていく時間が増えるにつれ、次第に今自分が刀に関わっていることが仕事のためだけでなく、ほかに責務があるのではないのかと疑問を感じるようになってきました。

数百年前に作られた刀が今、自分の手元にある。偶然なのか必然なのかはわからないが、目の前にある刀は何十年、何百年と、さまざまな人にさまざまな思いで大事にされ、今日まで受け継がれてきた。そう考えると、これはどんなことがあっても現世で絶やしてはいけない、必ず後世に伝えていかなければならない、と考えるようになっていきました。

現在は経済の停滞、収集家の高齢化、少子化問題(実は私も一役買ってしまっているのですが…)と、この日本独自の伝統品の継承

に対する危機的要因が至る所に顕在しています。

このような問題から刀を守るために、諸先輩方がさまざまな方面から尽力されているのを目の当たりにしていると、これからはわれわれ次の世代がそれをいかにして形にし、継承し、発展をさせていくかが課題かと思われれます。

まだまだ経験の浅いゆえ、どのが最善なのかは思索するところですが、刀に携わる一人として今後微力ながらも貢献していけるように、日々精進していきたいと考えている今日このごろです。

■一筆啓上

やってみましたが、刀剣業界のイケメンの言葉は、この人。キング・オブ・スーツの似合う男、神田藤古堂の二代目、藤田裕介さん、三十七歳。圧倒的ルックスにもかかわらず、女性の好みを聞く予想外の答えが…(笑)。しかも未婚である。世の中うまくできてますねえ。仕事面では真面目で人当たりの良さが光る。趣味は野球。(大平将広)

連絡先 神田藤古堂 TEL03-0047 東京都千代田区神田一-二七 ☎03-0121-1814 四二

新春特別インタビュー

業界現役最長老・小澤正晴さん 80歳に聴く

いかに長寿社会とはいえ、このお年で現役の方はまれであろう。しかも、私生活では今も登山や狩猟を楽しんでいる。本紙編集委員が交換会終了後に小澤さんを囲み、健康の秘訣や、業界で長く繁盛してこられた体験・教訓・信条などを聞いた。



年齢を感じさせない…

「今日はお時間を割いていただき、ありがとうございます。初めてにお生まれを伺います。」

小澤 昭和九年十一月二十四日、足利市の生まれ。

「といつかは、ちょうど八十歳。子供たちには三年前からお祝いなんかやってくれるようになってきた。先がなくなるから。」

「この業界に入られたきっかけは。小澤 刀が好きだったね。曾祖父が集めた拵付きの刀が長持に三十振ぐらいあって、持ち出しては弟とチャンバラごっこをして遊んだ。戦後の刀狩りも乗り切った家に残ったが、刀がわかるようになってから見たら、ろくなものはなかった。」

「最初から刀剣商ではなかったわけですね。」

小澤 若いころは魚屋をやっていた。といっても、小売りだけではない、卸しも兼ねていた。

「転機はいつごろですか。」

小澤 この前の東京オリンピック開催は昭和三十九年だが、その前、同業の横島忠弘さんは今も健在だが、その兄さんと友達で、朝



に晩に遊びに行っていた。当時の横島家は、お父さんが市場を主宰するほどの刀剣商一家だった。それが縁だね。

「ほとんど独学ですか。」

小澤 そう。肝心なところは見せてくれないし、自分で体験しないと勉強にならないと言われた。それでやってみるのだが、買って損して、売っても損ばかり…。

「そのころの業界の景気はいかがでしたか。」

小澤 大したことがなかった。その後、某刀剣商と知り合ったが、この人が「古刀にあらずんば刀にあらず」と言うので、水戸三振を来国光と交換した。日刀保の審査に出したら、来国光は落ちて、水戸刀は三振ともマル特に合格した。しかし、刀は安いけれども、よく売れた。決して悪い時代ではなかった。

「小澤さんと言えば、有名な話がありますね。手に入れた大和守安定を重要刀剣にしたら、一千数百万円になったという…。」

小澤 四十七年だったな。あまり言われると困るのだが…。そう言うあることじゃない。

「とにかく、五十一年ごろまでは良かった。店に並べておくより、仲間内の方が高く売れた。リストクはあったけれど(笑)。一つの市場で一人が三千万円ずつ商った。仙台・河口湖・伊勢と、続けて車で回ったり、一月に二十三日市場に

出たり…。メーターがリミットの十キロを超すのにあまり年月がからなかった。百振以上積んで地方審査を巡ったこともある。経験していない者にとっては、夢のようなお話ですね。」

小澤 貴重刀剣を申請する、貴重刀剣になったら次はマル特に期待する。刀が出世することを夢見て誰もが刀を買った時代だった。

岡山でタクシーに乗ると、運転手が「今日の市場はどうでしたか」と聞いてくる。喫茶店に入ったら、刀の話が飛び交っている。空港警察官に「刀が買いたいのだから」と相談される。岡山中が刀で熱くなっていた。市場に集まった人が多すぎて、二階の会場の床が抜けたこともある。

「その当時の思い出の刀と言いますか。」

小澤 今度のは本物だが、来国光が割合安く手に入った。買い手が付いて、金塊一キロでどうだと言う。当時、グラム六千円台で高かったが、まだまだ上がりそうだった。金に目がくらんで、取引に応じた。そのうちに金は下がったが、来国光は重要刀剣に指定され、一千七百万円にまで上がった。その景気が後退に転じるのはいつごろですか。

小澤 第一次オイルショック(四十八年)は何とか乗り切ったが、第二次(五十四年)は打撃だった。毎月五十万円ずつ下がっていき、偽造刀事件が表面化するの五十六年ですが、業界への悪影響は大きかったですか。

小澤 福岡の審査会に行ったら、目の前でヤクザ者が日刀保の先生を脅迫し、マル特を付けさせてしまった。あれだけ新聞に叩かれれば、世間の信用はなかりますよ。私も容疑者の一人に刀を売ったせいで警察に事情聴取されました。清麿が偽物でも一千万円だった

という話を聞きましたが、悪貨が良貨を駆逐するの例えの通り、真面目な業者が迷惑を被り、業界の疲弊を招きましたね。

小澤 骨董の市場へ行くと、よくわかる。刀剣業界の景気のいいときは、刀もよく取引されるが、悪くなったら見向きもされぬ。その後も低迷が続いたのでしょうか。

小澤 いや、昭和六十三年ごろから平成の初めにかけて良くなった。われわれは二回、いい時代を経験している。

「今に続く不景気の原因の一つは、やはり平成十九年のリーマン・ショックでしょうか。」

小澤 あれは影響が大きかった。当時、二週間入院していたが、退院したらガクンと下がっていた。

「先ほどの交換会で、無銘の畠田(重要刀剣)が二百五十万円で取引されましたが、この値段はいつものレベルでしょうか。」

小澤 昭和四十二、三年ごろかな。四十九年ごろだと、八百万円はしていたと思う。

「四十七年ごろ、この業界に入りましたが、当時、無銘の重刀はおしなべて六百万円でした。無銘の南北朝の備前物が拵付き、重刀指定で、当時八百万円。今だと三百万円行かないでしょう。重要刀剣に指定された名品でも、リーマン・ショックと業界の

連鎖倒産後は大きく下がってしまいました。しかし、刀の値段が下がったとは必ずしも言えないのではないのでしょうか。というのは、重要刀剣そのものが年々増えており、今や二百数十振に一振が重要刀剣ですから。」

小澤 そうそう。刀全体の〇・五パーセント弱が重刀と聞くとゾッとしますが、そもそもいい刀は二万振ぐらいしかない。

「これからの時代、若者には希望が持たにくいのですが、どうなるのでしょうか。」

小澤 いずれ良くなる。必ず良くなる。刀は日本だけのものじゃない、世界の刀だ。

「小澤さんのように、長く生き残っていくには、どうしたらいいのでしょうか。」

小澤 難しいね。お店のお客さんもちろん大事だが、やっぱり仲間が大事。独りじゃ生きていけない。仲間に誠を尽くせば、必ず助けてくれる。それに、他流試合のつもりで、遠くの市場にも行った方がいい。初めは安く買われ、なかなか売ってこないかもしれないが、そのうち仲間になれる。諦めちゃダメだ。「若者よ、旅に出よう」と言いたい。

「ところで、小澤さんの趣味は登山・狩猟・犬と聞いています。富士山には今までに何回登られましたか。」

小澤 自慢に聞こえるからあまり言いたくないが、十回以上は登っている。夕食を食べてから栃木県小山の自宅を出て山に登り、朝まで下って、市場に行ったこともある。

「ゴルフもなさいますね。」

小澤 やるけど、日本一へた。いや、日本一早い。一ホールで七、八回叩くが、三、四回ウツウツやっている人より早い。そんな健康の秘訣は何ですか。

小澤 ここまで元気やっつこうとしたのは健康のおかげだが、体にいいことは全くやっていない。でも、虫歯は一本もないし、堅い食べ物が好き。強いて言えば、クヨクヨせず、好きなものを食べて、眠くなったらどうでも寝ることがな。丈夫に産んでくれた両親に感謝するばかりだね。

「これからしたいことは何ですか。」

小澤 いつまで生きられるかわからないが、一生現役で、この商売を続けたいね。儲かっても儲からなくても、刀を売り買ひするのが根っから好きなんだね。

「ありがとうございます。」

■小澤刀剣店 〒323-0032 栃木県小山市天神町二八五五〇二八五三〇五三三三

間が大事。独りじゃ生きていけない。仲間に誠を尽くせば、必ず助けてくれる。それに、他流試合のつもりで、遠くの市場にも行った方がいい。初めは安く買われ、なかなか売ってこないかもしれないが、そのうち仲間になれる。諦めちゃダメだ。「若者よ、旅に出よう」と言いたい。

産経WEST 【関西の議論】エヴァ、うる星、“萌える”刀剣展…冷めた刀に吸い込まれるような美、そしてエロスが似合う

大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前)で不思議な催しが行われている。タイトルは「現代刀匠二番勝負 お守り刀展覧会×二次元vs日本刀展」。なんとスケジュールである。しかし、底流に流れるのは「クールジャパン」。日本刀という伝統の工芸品にイラストレーターたちのアートなどがからまり、訪れる若い人も多い。伝統と革新とを織り込んだニュータイプの展覧会とは…。(正木利和)

「子連れ狼」「修羅雪姫外伝」「うる星やつら」…アニメ・イラストとコラボ 「二本立ての映画と考えると。もちろん守り刀が先にあって、集客力を考え二次元vs日本刀展も、ということですね」と同館担当学芸員の内藤直子さん。前半は全日本刀匠会という刀工の団体の「お守り刀コンクール」で入賞した作品を展示している。ここでは来場者の投票でランキングを新たに競うコンテストも行われている。この試みによって、来場者が刀剣を一生懸命見るようになったそうだ。後半は「温故」「現代」「未来」に分け「温故」は前近代の武器武具と、それにインスピレーションを受けた現代コンテンツアーティストの作品を展示する。添田一平の「池田家の女」「池田恒興」のイラストと古い兜や太刀が目目をひく。「現代」は現代刀匠とコンテンツアーティストのコラボ。「子連れ狼」の小島剛夕、「修羅雪姫外伝」の池上遼一、「うる星やつら」の高橋留美子といった大家の作品に目を奪われるが、太刀も美しい。「未来」は現代のイラストレーターが描く、刀剣の未来像の展示になっている。

刀匠、イラストレーター、ともにお披露目の場 刀剣とイラストは、新しい試みというわけではない。昨年、人気アニメとコラボした「エヴァンゲリオンと日本刀展」を開催した同館は2カ月で約6万人を集めるヒットを記録した。「いかにいいか、という声もありました。若い人が熱心に来てくれて大成功でした」(内藤さん) 刀匠にすれば、自分たちの作品の披露の場、イラストレーターたちにとっては、とりわけ若手は知名度アップの場。開催する美術館としてはそれで潤えば文句なし、というわけである。しかし、不思議に思うのは、帯刀を禁じられ、刀が用をなさなくなったこの時代に刀匠という仕事がいまなお続いている、ということだ。けれども実はどの時代にも刀剣の美しさにひかれる人というものがいて、一定の需要があるのだそうである。また、手続きに手間がかかりそうと思うのだが、刀鍛冶の方で登録してくるので、だれでも持てる、というのが実情だ。価格も若手の刀工なら、短いものであれば十数万円台でつくってもらえる。「刀鍛冶は兼業されている方も多いうです。専業の場合は奥さんが仕事をもっている、という方が多いですね。ただ、生活の苦しい方もいる。いずれにしてもファン層拡大のため、アニメと組んだ。前回の展覧会を通じて知り合った刀鍛冶とアニメファンが交流を続けているという話も聞きます」(内藤さん)

「男根主義」…刀とおんな、行く末を暗示か なるほど、じっと見ていると刀剣には吸い込まれるような美しさがある。ただの工芸品ではない品格なのである。しかし、そのあとに続く部屋でイラストを見て回ると、あることに気付く。「男」のイメージの強い日本刀なのだが、イラストのなかで太刀をふるっているのはなぜか「カワイイ」女子ばかりなのである。「刀剣」には女子のエロスが似合うのか、それとも女性が権力を振るう時代の到来を、イラストレーターたちが予感しているのか。写真撮影可の展示。シャッターを押しながら、これからの男たちの敵、という声もあふ…。



二次元vs日本刀展の小島剛夕の「子連れ狼」のイラストと主人公拝一刀の佩刀をイメージして作った刀剣

「生誕二百年記念清磨展」記念碑除幕式が挙行される

鉄の展示館で、山浦忌名刀鑑賞会も

標高の高い信州では、十月中旬ごろから周辺他県よりも一足早く紅葉前線がやって来ます。そして信州の秋は、一気に野山を駆け下り、麓の街並みを鮮やかに染め抜く紅葉とともに足早に過ぎていきます。

残暑が一段落するころから、朝夕の寒暖差が十度以上になる日が

続くことにより、紅葉はどきどき鮮やかに染まります。

そんな錦繡に彩られた信州の去る十一月十五日、長野県坂城町にある「鉄の展示館」において、平成二十二年の開催以来四年ぶりの長野県三支部合同の「山浦忌名刀鑑賞会」が行われました。またこの日は、平成二十五年に開催



清磨碑と来賓・実行委員の方々

された「生誕二百年記念清磨展」を記念して鉄の展示館入り口に記念碑が設立されることとなり、そのお披露目を兼ねた完成披露式も同時に執り行われました。

展示館の周りの木々が赤・オレンジ・黄色に染まり、少し肌寒く澄んだ空気が集い、午前十一時より式典が始まりました。当日の天気は雨の予報でしたが、朝は晴れ間も見え、式典の最中には時折、小さな雨粒がパラパラと落ちることもありましたが、粛々と進行してまいりました。

開会の宣言の後、本展の登川喜一実行委員長の挨拶を皮切りに、来賓の方々からご祝辞を頂きました。木内ひとし衆議院議員、若林健太参議院議員、財団法人佐野美術館・渡邊妙子館長、そして坂城町・山村ひろし町長と続き、次いで記念碑の除幕式が行われました。

来賓の方々によって紐が引かれ、アンペール幕が上がり、落ち、そこには高さ二・五メートルもの立派な記念碑が姿を現しました。日本美術刀剣保存協会元顧問で、清磨展実行委員会副委員長でもある寺尾文孝氏より、記念碑設置に至った経緯と記念碑の銘文について紹介がありました。

この記念碑は、生誕二百年を記念する清磨展の実行委員、ならびに同展覧会の趣旨に賛同してくださった方々のお力添えにより、設置されることになったものです。記念碑の表には長野県宝に指定さ

れている嘉永二年八月日の刀の銘字が転写されています。そして裏面には、同展覧会実行委員および協賛して下さった方々の芳名が刻まれています。

除幕式が終わりに近づくと、小雨もすっかりやみ、爽やかに晴れ渡った空の下、記念碑完成披露は無事終了しました。

除幕式の後は、近くにある食事処「しなの木」にて昼食会があり、その後再び鉄の展示館に会場を移し、午後一時より三支部合同による名刀鑑賞会が行われました。

鑑賞会には各支部会員からの出品と、渡邊館長が特別にご持参くださった刀剣合わせて二十一振が並びました。(作品は別表の通り)

今回は、山浦忌の名刀鑑賞会という事で山浦一門の作品が主となり、また会場設営の関係で点数も限られました。これらの展示品以外にも、会員の皆さまから重要美術品・特別重要刀剣などの名刀を多数ご持参いただいたており、残念ながらこれらを鑑賞することはできませんでした。

参加者はおよそ二時間、清磨に思いを馳せながら思い思いに鑑賞しました。その後は、渡邊館長により刀剣の解説と、新たに発見された秋での清磨の動静に関する資料や情報などについての貴重な講演があり、一同聞き入りました。

そして午後四時、盛況のうちに本日の行事は滞りなく執り行われ、お開きとなりました。(朝倉忠史)

短刀	河内国平
短刀	源朝臣兼虎 寿長時歳七十一
脇指	天然子寿昌 天保十一年庚二月
刀	嘉永二年二月日 於信州上田 山浦昇源正雄作之 青木安栄剣
太刀	源正雄 嘉永辛亥歳二月 応山崎高澄需
刀	山浦真雄
刀	山浦環
刀	正行 (武器講時代)
脇指	源正行 弘化二年八月日
脇指	源清磨 嘉永五年二月日
短刀	朱銘 清磨
刀	造大慶直胤(花押) シナノ(刻印) 天保七年十一月吉日
太刀	兼虎作 文久三年歳癸亥仲春
刀	直心斎兼虎 明治四年八月日
短刀	無銘 小松正宗
短刀	無銘 志津 (伊達家伝来)
短刀	源清磨 弘化丁未八月日
短刀	筑前守信秀 東山筆 於大坂
短刀	筑前守信秀 慶応三年五月日
短刀	君万歳 清人作
短刀	庄内住藤原清丸 明治二年八月日

古銭・切手・刀剣 売買 評価 鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中勝憲
 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-3-1-10
 TEL 03-3771-0167
 03-3771-0167
 FAX 03-3771-0167

発行相次ぐビジュアル刀剣書

最近の書店で、図解を多く含んだ刀剣書籍が紹介されているのをよくご覧になりましたか。

八年前に発行された『日本刀大全 I』はその火付け役として、既に九回の増刷を重ね、その続編の『日本刀大全 II』や、日本刀に関するあらゆる情報を一冊にまとめた『日本刀事典』も人気の書籍となっています。

一昔前は日本刀の本と言えば、大判で分厚く、発行部数が極端に少ない故に価格は一万円前後から数十万円もするものまである、高価な専門書というイメージでしたが、現在では趣味の一分野として、すっかり書店の一面を占めるようになったのは喜ばしい限りです。日本刀愛好家の裾野は確実に広がっていると感じます。

一方、他の趣味の世界に目を転じれば、例えば古銭、切手、日本絵画や焼物、茶道具などの美術全般を概観しても、九回も版を重ねる書籍は少なく、年間に何冊も新刊が発売される状況など思いもよらぬことではないかと思えます。

しかし、安穩としてはいられませんが、われわれの日本刀業界もいずれば愛好家の減少という他の趣味分野が抱える問題に直面するのでは、という心配は誰しも持っているのではないのでしょうか。

この意味において、日本刀関連書籍の発行点数やその販売部数、各美術館が工夫を凝らして行う刀剣展の開催頻度、またその来場者数、さらに組合が総力を結集して行う「大刀剣市」の来場者数などは、刀剣界の行く末を予見する先行指標としての意味合いを持っていると思えます。

嬉しいことに、先の大刀剣市の来場者は昨年を上回ったと聞きま

す。手弁当で奔走してこれた諸先輩の地道な努力が実を結んだ結果だと、頭が下がる思いです。

本誌刀剣界バックナンバーに、「名刀は刀匠の人格が造る」と、かの依國一博士のお言葉が紹介されていました。同じことが刀剣業界にも言えるのであれば、現在の刀剣業界はそれに関わった方々の人となりによって、今の成功があるということになります。また、今後の刀剣界についても同じことが言えると思えます。

紆余曲折はありながら、現在の業界を作ってきた各分野の先輩方の業績の大きさがあらためて感じられるところです。

ここで、最近見かける、いわゆるビジュアル系の「刀剣関連書」を思いつくままに挙げてみれば、次の通りです。

- ①『日本刀大全Ⅰ』(学研) 定価 2100円(税別)
- ②『日本刀大全Ⅱ』(学研) 定価 2100円(税別)
- ③『日本刀事典』(学研) 定価 2500円(税別)
- ④『The刀』(英知出版社) 7400円(税別)
- ⑤『日本刀の本』(宝島社) 定価 8000円(税別)
- ⑥『図説入門』(学研) 定価 9000円(税別)
- ⑦『歴史人SPECIAL』日本刀大図鑑』(ベストセラーズ) 定価694円(税別)

NEWS & TOPICS
イタリアで注目される日本刀
 吉原刀匠が国立美術館に作品を寄贈



67回を迎えた「清磨会」 併せて在りし日の諸先輩を偲ぶ

清磨の眠る宗福寺は、国立競技場ほど近いJR信濃町駅から徒歩七、八分の所にある。外苑通りを四谷三丁目方向に行き、四谷左門町の信号を右折して四百メートル入った右手にあるのが、この禅寺である。

寺に面した通りは昔のままの二間幅で、現在は一方通行になっている。両側には数多くの寺が並び、いわゆる寺町である。

清磨の命日である十一月十四日は今年も好天に恵まれ、暖かく穏やかな一日であった。準備が早く整い、開会まで時間があったので、深津尚樹君の誘いで「首切り朝右衛門の墓に行ってみよう」ということになり、清磨会を主宰する柴田光隆社長をはじめ関係者で歴史探訪の散歩に出かけてみた。宗福寺の斜め前の戒行寺には、「鬼平犯科帳」で有名な長谷川平蔵の供養碑があった。近年新しく建



第67回清磨会、四谷左門町・宗福寺にて

てられたもので、幅一メートル、高さ一・八メートルもあり、さすが火付盗賊改にふさわしく立派であった。

すぐ隣の勝興寺には、本堂横に並んで六代目山田朝右衛門吉昌と七代目山田浅右衛門吉利の墓があった。百七十年ほどの星霜を感じさせる趣ある墓である。

驚いたことに、本堂の正面両脇の径一メートル超の大きな鑄造水槽には、山田家の家紋である桜紋が大きく浮き彫りにしてあった。しかも側面には、吉昌が嘉永元年七月に満六十一歳を迎えて剃髪し、松翁と号した記念にこれを寄進した旨が誌されている。山田家が当時、いかに裕福で、かつ信仰心が厚かったかを物語っている。勝興寺の前の西心寺には、剣客として有名な榊原健吉の墓があり、これにもお参りした。

このように、宗福寺の周辺だけでも歴史上の人物がこれだけ眠っている。清磨会に出席された折にはぜひ訪れ参拝されることをお勧めしたい。

本堂の裏手の柿の木の下にあったようである。二度目の墓の位置は、現在の墓の一、二間先にあっただい。ともあれ、明治二十一年五月に刀工の正次が中心となり、ほか四名とともに建立したことは、墓石の裏側に誌してあるのわかる。

高さ約四尺の赤みがかった自然石の表には「大道院義心居士 山浦環刀名源清磨墓」と鮮やかな筆跡をもって刻されている。

清磨の墓の隣には、寄り添うようにして、戦前・戦後を通じて清磨の収集に資産を投じた紙問屋の主人、齋藤一郎翁の墓が建つ。生前、好きで好きでたまらない清磨の眠るそばに、あえて自らの墓を置いたのである。墓石中央に「齋藤一郎之墓」と誌し、脇にやや小さく「清磨似保礼太流」と添えているのがいかにも齋藤さんらしい。

私がまだ学生のころ、清磨会でお会いすると、「眞賀君、わしがあの世に逝ってもここに居るから、清磨会にはぜひ来て下さいよ」と言われたことが思い出される。小柄で白髪、いつも笑顔が素敵な愛刀家であった。

清磨の墓の右側には墓誌が建つ。その横に並んで内田疎天先生と水心子正秀の墓がある。水心子の墓はもともと千住の方にあったものを、犬塚徳太郎先生が補修されここに安置されたと聞いている。今年の清磨会には、正行銘で大切先の武器講打ちの刀、天保十五年の信州小諸打ちの刀、金象嵌銘ながら藤代松雄先生極めの刀、門人の信秀・清人のほかに、安綱・正宗の名刀が出品され、皆さん大満足の様子であった。

卓話では、山口県周南市から毎年必ず出席される国広浩典氏の話は興味深かった。天保十三・十五年、清磨は萩に滞在しているが、これは従来、天保十年に始まった武器講からの逃避行と伝えられてきた。しかし大きな誤解であった。実際は、当時の萩藩では軍備の充実を力を入れていて、刀剣製作技術を向上させるため、江戸当役用談役の村田清風より萩に呼び寄せられたものである。村田清風記念館には清磨直筆の書状や、それに類するものも残されている。この国広氏の熱っぽい話を聞いて、一番喜んでいただけたのは、清磨さんではなかったらうか。

午後三時から読経、その後、本堂前にて記念撮影をし、墓前へ酒や線香を手向けた。

直会では、柴田社長の挨拶、園平治氏の献杯と続き、その後は懇親の楽しいひとときを過ごし、夕刻五時に散会した。

今までの清磨会では、楽しい思い出がたくさんある。福永酔剣先生や辻本直男先生からは、素晴らしいお話を聞かせていただいた。



昭和43年の清磨会。前列右から2人目柴田光男氏、1人置いて国広浩典氏、1人置いて齋藤一郎氏、その後ろ犬塚徳太郎氏、その右後ろ福永酔剣氏、最後方に園平治氏、前列左端は21歳の筆者

清磨会ではなければ見られない名刀も数々あった。今回は昭和二十三年というから、刀剣界の戦後そのものでもあろう。故柴田光男会長が長年お世話なされ、その後を柴田光隆社長が引き継いで今日に至った。ご苦労は計り知れず、参加者の一人として厚く御礼申し上げます。

「清磨会は独り清磨だけのためではなく、古今の刀工や、刀剣界に尽力され、現在鬼籍に入られた諸先生、諸先輩も同時に供養させていただいているのですよと語っておられた柴田会長の言葉を思い出す。

清磨会には誰でも参加できる(ただし会費制)年に一度の楽しい会です。ぜひご参加を。



市民に囲まれて作刀を披露する吉原刀匠

によるトリノでの焼入れ実演から始まった。その後三回、十三・十四世紀に建立された美術館や市庁舎の中庭で日本刀製作実演が行われ、二〇〇七年には、国立美術館バルジエロ館長の要望で前年度焼入れした脇指を寄贈、記念式典が行われ、日本刀の展示場も新設された。

そして、これまでの実績もあって二〇一四年九月に開催された「第一回アート・イン・メタルショー」では、「世界の第一線で活躍するナイフ・刃物アーティスト十五人」の一人に選ばれ、日本刀の美しさと面目を披露した。

愛刀家が集まるINTK(イタリア日本刀剣協会)は、百名の会員を持つ。トリノでの実演を見ていた会員たちは、翌二〇〇六年度、本部のあるフロレンスのパルジエロ国立美術館での実演に、再び吉原刀匠を招待した。

焼入れは、各地から集まった会員が見守る中、鎌倉時代に建立(二二六一年)された元司法庁の中庭で行われた。一部始終を見ていた館長の「その刀を当館に寄付していただませんか」という問いに、刀匠は「喜んで。来年研磨して持ってきます」と答えた。バルジエロは、ルネサンスの巨匠ミケランジェロやドナテロの作品が並ぶ美術館だ。翌年の式典では、市の国立美術館ディレクターが「これを機会に文化交流ができれば」と述べ、刀匠は「日本刀は武器として始まりましたが、時代を経て日本人の精神文化となりました。機能を追求した究極の美こそ日本刀」と強調。武器武具の部屋に新設された展示ケースには、氏の脇指のほかに、同氏の訪問で百二十年ぶりに蓋が開けられ、新たに研磨された明治時代に海を渡った水心子正秀や大慶直胤の刀剣が展示された。三度目の実演は、二〇一二年度の第十五回WKC(世界剣道チャンピオンシップ)と同時開催。三日間にわたって実演された「火造りから焼入れまで」で、協会の役員は、「剣道のルーツは日本刀」と大いに歓迎。刀匠は季節外れの激しい雨風が吹き荒れる悪天候の中、十三世紀に建立されたプロレットの中心で焼入れを完遂した。四度目は二〇一三年度、刃物の街として知られるスカペリアでの焼入れ実演。駆けつけた市長は「伝統的な物作りを見せていただくことは、この地域にとって大きな励みになります」と挨拶。伊は優れた職人集団の国であるが、近年は廉価な労働力を求めて、刃物を作る工房が著しく減少している。市長は「この城の中には刃物の歴史博物館があります。この中にぜひ日本刀のコーナーを設けたい」と語った。

「日本刀の世界が少しでも広がれば」という思いで実演を続ける吉原義人刀匠。イタリアで日本刀の世界は確実に広がっています。(サンフランシスコ在住、カップ啓子/写真ジョージオ・モビリ)

刀 剣 界

特別寄稿

「もののふの美と心」八代城主・松井家の刀剣と刀装具——開催の意義

八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員 石原浩

松井家は室町時代、足利將軍家に仕えた武家である。江戸時代には肥後細川家で代々家老職を務め、正保三年(一六四六)から明治三年(一八七〇)まで、熊本城の支城である八代城を預かった。当家には、武器・武具、能面・能装束、陶磁器、書画、古文書など一級の文化財が伝来、現在は一般財団法人松井文庫が所蔵・管理している。

むしろ興味深いのは、松井家という家格に見合う刀剣がなかなかもなかったのか。当コレクションは、それを知る手がかりになるということである。

残念ながら、松井家伝来刀の由来は不明だが、「松井家譜」には歴代当主が拝領した刀剣の記録が残る。例えば、松井初代康之は、軍功の褒賞として足利義昭から「朱柄の槍」(伝存)、秀吉から「國重の脇指」、家康から「志津の脇指」を拝領している。逆に、大名の八代光胤に際しては、拝領した刀剣を再び献上することも少なくなかった。拝領と献上を繰り返す武家の刀剣事情が見取れるのである。

当コレクションのもう一つの魅力は、松井家の刀剣は古刀が多いが、付属する拵の多くは、江戸時代、肥後の職人たちに依頼して作らせた「肥後拵」である。肥後金工による象嵌細工はよく知られているが、青貝微塵や鮫皮研出朱箔巻塗といった斬も素材の魅力を生かした細工が美しい。職人たちの確かな技に加え、無駄な装飾を省いた実用的なデザインとシックな色合い、まさに「侘び」の美学である。

これは利休七哲の一人、細川三斎のプロデュースにより生まれたもの。茶の湯のみならず、武器や武具にも、利休の美学が反映していたのである。

松井家伝来刀の魅力は、宗近や正恒・景光・雲生・行光など、名刀が揃っているということである。美術作品としての価値は、本紙「愛読の皆さまには説明するまでもないだろう。」



「もののふの美と心」展示会場

一般財団法人松井文庫は、昨年創立三十周年を迎えた。これを記念して、展覧会では松井家当主が天下人から拝領した名品、松井家と交流のあった宮本武蔵ゆかりの品々も紹介。八代の誇る武家文化コレクションの存在意義を内外に知らしめるいい機会となった。



★展覧会図録「もののふの美と心」頒布のご案内

展覧会図録「もののふの美と心」八代城主・松井家の刀剣と刀装具」を販売しています。定価一、二〇〇円(送料三五〇円)。ご希望の方は、書名・冊数・送付先・電話番号を明記の上、現金書留にて図録代金(現金)と郵送料(三五〇円)分の切手を、八代市立博物館(T866-0863 熊本県八代市西松江城町一三三三〇九六五三四五五五)までお送りください。二冊以上ご希望の方は、博物館へお問い合わせください。品切れの際はご容赦をお願いします。

話題の剣人 No.002

先端技術で 伝統美の革新に挑む

河内晋平さん



河内晋平さん

去る十一月、東京・表参道のバツアートギャラリー(BATSU ART GALLERY)にて、全く新しい概念で製作された作品「澄鞘(Sumisaya)」が初公開された。それはなんと近年話題になって

いる3Dプリンターを鞘の製作に用いた作品だという。3Dプリンターは建築やデザイン、では外食産業にまで革命を起す新発明であると昔を賑わせているが、それを早くも日本刀の世界に持ち込み、アートを昇華させたというのである。この今までにない、全く新しい

作品を生み出すきっかけを作ったのは河内晋平さん。昨年正宗賞を受賞した河内國平刀匠の子息で、現在、株式会社studio仕組の代表取締役。その晋平さん自らに澄鞘の魅力を語っていただいた。

本作は最先端の3Dプリント技術を駆使した革新のデザインで、刀の新しい魅力を鮮やかに映し出しています。熟練した刀鍛冶が創り出す「刃文」と「鞘の緊張感」をより良く見せるためのデザインを追求しました。

普段は鞘によって隠れてしまう刀の魅力を見せるべく、刃文の波と鞘のデザインが調和するような刃断面シルエットを3Dプリンターを使ってデザインし、全く新しい刀装具としました。

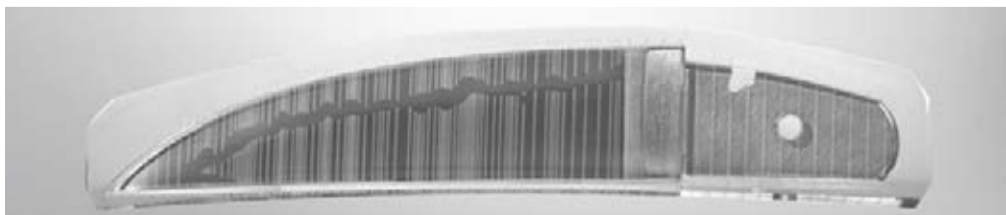
古くから培われて来た日本の伝統美と、3Dプリント技術による

先鋭的なデザインが織りなす大胆な鑑賞体験に、あなたの内なる美意識が目覚めよう。世界初の試みとなる私たちの挑戦をどうぞ堪能ください。

河内晋平さんは、平成二十一年より約三年間、東京国立博物館アンシエトフェロとして勤務。同二十三年から職人やアーティストの支援、映像演出、空間デザイン、グラフィックデザインなどを行うstudio仕組の代表取締役として、作品管理(アーカイブ業務)から展覧会プランニング、販売までをワンストップで行う事業を運営してきた。主な展覧会に、SUDCORE(BATSU ART GALLERY)、「松本瑠樹コレクション」ユニートピアを求めて・ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム(神奈川県立近代美術館など)。また二十三年より、東京芸術大学にて研究者として文化財のデジタルアーカイブについての調査研究を行った。

異色の経歴を基に、刀剣や古美術の世界に最新のアート感覚を持ち込み、革新を図る河内晋平さんの今後の活動に注目したい。(飯田慶雄)

ホームページ = <http://www.studio-shikumi.jp/>



SUMISAYA(澄鞘)は、(株)studio仕組のORIGAMIと(株)カブクのrinkakによる、新たな伝統工芸創出のための共同開発商品である

第12回 栃木県佐野市 唐沢山に刻まれた郷土の歴史

冥賀 吉也

私のふるさとには、栃木県佐野市である。

佐野という地名のイメージからは、最近では「フレーム」「戸除け大師」「アウトレット」等々が挙げられるかもしれないが、江戸時代には

天明の茶釜、近代では足利・桐生と並んで織物で栄えた街である。

人物では、足尾鋳毒事件の田中正造翁、日本刀を二度蘇らせた男栗原彦三郎(刀工銘昭秀)が知られている。刀工では江戸後期から

三代続いた源将忠、それに竹井信正、金工では菊池政長

がいるが、あまり知られていない。

昨年三月、佐野市の北



龍綺兜

左野市の北

海抜二四七メートルにある唐沢山城跡が国指定史跡になった。そこで、唐沢山城について触れてみたい。

佐野氏の居城として唐沢山頂に築城した最初は、室町中期の文明ごろの説もあるが、本格的な城は織豊時代、佐野信吉のころと言われている。佐野氏は足利氏と小山氏の間にあって、戦国時代は生き延びるために北条方に付いたり、上杉謙信方に付いたりして

相当な苦勞があったようである。秀吉の時代、佐野氏は秀吉の側近富田信種を養子に迎え、佐野宗綱の娘と娶せ、佐野家の名跡を継がせた。信種は秀吉の一字をもらい、佐野信吉と改めている。天正二十年(一五九二)の朱印状には三万九千石とある。秀吉の狙いは、家康に対する北からの監視で

ある。この時期に、現在の城郭が完成したと言われている。

秀吉亡き後、時が移り、徳川政権になってからの慶長七年(一六〇二)、当然のことながら廃城にされてしまった。

その後、明治維新までの二百六十五年間、入山禁止の「おとめ山」となり、完全に草木に覆われたままの状態であった。

戦国時代、永祿ごろには、上杉謙信が遠く越後から八回も攻めてきたとの記録がある。いかに重要な城であったかがわかる。私の小学校時代、春の遠足、秋

の写生会は、いつも唐沢山だった。春は新緑やヤマツツジが城全体を覆い、秋には松茸がたくさん採れ、十一月ごろは紅葉が美しくかった。今、冬の晴れた日には八〇キロ離れた東京スカイツリーが見え、南西方向には富士山も見える。さらに、天狗岩からは北側に日光の男体山も見える。

眼下には有名な唐沢カントリークラブ佐野コースが望め、周辺には数多くのゴルフ場がある。ゴルフがてら、あるいは佐野を訪れる折、唐沢山はぜひ立ち寄り寄ってほしいスポットだ。

最後に佐野家について記すと、同家は平安後期、「百足退治」で知られる藤原秀郷(後藤大)を祖に仰ぐという。鎌倉時代中期の建治二年(一二七六)には、日光二荒山神社に佐野安房兵衛次郎藤原



東京大会が開かれた西日本甲冑交換会

西日本甲冑交換会、東京大会を開催

岡山に甲冑専門の交換会、西日本甲冑交換会がある。西日本甲冑

交換会は発足して三年が経つが、その前身は西日本名兜交換会であり、三十八年続いた歴史ある会である。諸事情で休会になることを憂えた代表者の推薦と、甲冑業界の衰退を危惧した業界の先輩方の後押しで、東京都渋谷区に本拠を置く日本刀旗谷の店主、旗谷大輔氏が会を引き継いだのである。

新たに会を立ち上げるに際して、三年前より春と秋に東京大会を行っている。周囲も心配する新たな試みであったが、初大会が成功して三年、回を追うごとに出品数も増え続け、今大会の出来高も約六千万円の数字を上げた。

代表者もともと甲冑の専門家ではないが、買い続けることで日々勉強しているという。買わないと勉強にならないとは業界ではよく聞く話だが、本を読むよりも学習速度が確かに驚くほど早いとのこと。言うは易しだが、それを実行する氏の行動力と度胸は相当なものである。

近年の日本ブームで、甲冑はヨーロッパで高い人気を誇る。会で購入した品物の六割ほどはヨーロッパの顧客向けに販売しているというが、海外に流出しているのが何か寂しいと感じるという。近々また時代の流れなのである。

美術品に対する意識や価値観は、ヨーロッパに比べて日本はまだまだ未熟である。しかし、日本の文化を守るためにも、業界の発展は不可欠である。そのためにも売り物があるときは、ぜひ甲冑会に出品してもらいたいとのこと。全国から専門家が集まっているので、どこよりも高値で取引される自信があるという。(大西芳生)

西日本甲冑交換会は毎月二十日、岡山のイベントホールみらのるガーデンにて開催。
事務局 東京都渋谷区代々木四二二二 日本刀旗谷 〇〇三三五〇八五三



全国からの参会者で賑わう新栄会の交換会

伝統ある新栄会、箕面で大会開く

初冬の寒さが身に染みる十二月六日、大阪箕面観光ホテル・大江戸温泉物語において、新栄会の大会が開催されました。

新栄会の歴史は長く、五十年近くになり、全国でも数少ない古い会です。阪急百貨店でお店を構えていた中宮敬堂さんや、大阪刀剣会の先代吉井哲夫さんが中心となって始めた共同会で、昔から関西の生ぶ品が出るので、東京はもろろん、全国から業者が集まってきた会です。

大会は吉井唯夫代表の挨拶から始まり、入札、競りと魅力的な品物がたくさん出て、盛大に盛り上がりました。生ぶ品物は買い手が

の購買意欲をそそります。買っても自分で手入れをしてあげたい品物も多くありました。それゆえに参加したいと思う方が自然に集まってくるでしょう。

会場となったのは、箕面観光ホテルの桂別邸という和室でした。ここからは箕面の絶景が楽しめ、特に紅葉の時期の夜景には素晴らしいものがあります。会終了後の懇親会も桂別邸で行われ、おいしい食事とお酒、カラオケもセットされていて、皆さん盛り上がりしていました。

箕面観光ホテルの経営は近年、

大江戸温泉に変わり、大会が開かれたのは土曜日とあって、ものすごい人であふれ、かつての大阪の活気を取り戻したかのようでした。新栄会という伝統ある会が、これからも大阪、関西を代表する模範的な市場となっていくことととても大切なことだと思います。(土肥富康)

- 新鋭会場 大阪南美術会館 〒542-0073 大阪市中央区日本橋一丁目二〇五 〇六六六四一五七二〇
- 事務所 吉井美術 〒542-0072 大阪市中央区日本橋二丁目一〇六六六三二二二〇



受賞者を代表して答辞を述べる研師の井上聡氏

石目が抜けているか、切先の横手筋がきれいに切れているか、鎗地に磨き棒がしっかりと当たっているか、などの指摘がありました。白鞘の部ならびに刀装の部では、廣井審査員より、拵の表現の力強さは、鞘の肉取り次第で変わる。角所の細かい点にも気遣いをして、柄巻きは全体的に良かったと思う。白鞘製作での重要なポイント

は、肉取りが適当であること。特に、柄が持ちやすいことが重要である。それ以前に木地の中に節が入っていたり、乾燥状態が不十分であるのは好ましくない。また、目釘もおそろいにしてはならない。目釘が出すぎていたり、へこんでいたりすると白鞘を傷つけることになる。とにかく、扱いやすい白鞘を作ることが大切である、などと述べられました。

柄前の部では坂入審査員が、今年は一八点と多くの出品があり、将来が楽しみである。作品にこれ完成ということはないが、手間をかける飽きな追求心を持つことが肝要である。例えば、鮫皮一つにしても、宝石のように磨き上げられたものは美に美しい。柄巻きでは、ふし紙が均等に入っていないと、仕上がりに影響が出てしまう。スッキリと力強くまとめられた柄は、優美である。さらなる精進に期待したい、と述べられました。

白銀の部からは羽川審査員が、鎗の鎗付けは火をかけることにより、地が緩み強度が下がってしまうから、二度の鎗付けは絶対に行わないようにしてほしい。また、棟と刃区の呑み込みがキッチリと合っていないと、刃区が欠けたりして損失が大きくなり、結果として刀を壊してしまうことになるので注意が必要である。来年も多数の出品があることを期待したい、などの講評がありました。

私は昨年に続き表彰式の取材をさせていただきました。新しい作品を世に送り出すには、研磨に始まり、多くの刀職者の協力が必要です。どんな世界でも技を極めることは容易なことではありません。毎年出品し、精進し続ける刀職者たちに激励の言葉を送りたいと思います。(生野 正)

季節は晩秋を迎え、街を彩る紅葉を一層輝かせるような青空に恵まれた十一月二十八日、六十七回目を迎える平成二十六年度の刀剣研磨・外装技術発表会表彰式が日本美術刀剣保存協会四階の講堂において開催されました。

- 〔白鞘の部〕塚本剛之氏
- 〔刀装の部〕久保純一
- 〔白銀の部〕宮本恒之
- 〔努力賞〕
- 〔研磨・鎗造りの部〕湯浅健吾・細越敬喜・小宮光敏・三村昌三・齋藤秀夫・真津仁彰・菊池真修・平井隆守・松村壮太郎・津上修一・苅田直樹・柿沼進一
- 〔研磨・平造りの部〕柏木良
- 〔白鞘の部〕永洞修・久保純一・曾我部明氏
- 〔刀装の部〕セルゲイ・セメンチュク
- 〔柄前の部〕久保純一・出口智之・橋本幸律・藤田康輝・飯山隆
- 〔白銀の部〕三島幹則・吉田謙三

受賞者の表彰の後、各部門の審査員から、作品の評価ポイント、良かった点、悪かった点、今後注意していかなくてはならないところなどの講評が述べられました。研磨部門の齊藤審査員からは、内曇・地艶などの砥石が利いているか、つまりより細かい砥石に移行する前に、前の段階での荒い砥石目が抜けているか、切先の横手筋がきれいに切れているか、鎗地に磨き棒がしっかりと当たっているか、などの指摘がありました。

白銀の部からは羽川審査員が、鎗の鎗付けは火をかけることにより、地が緩み強度が下がってしまうから、二度の鎗付けは絶対に行わないようにしてほしい。また、棟と刃区の呑み込みがキッチリと合っていないと、刃区が欠けたりして損失が大きくなり、結果として刀を壊してしまうことになるので注意が必要である。来年も多数の出品があることを期待したい、などの講評がありました。

私は昨年に続き表彰式の取材をさせていただきました。新しい作品を世に送り出すには、研磨に始まり、多くの刀職者の協力が必要です。どんな世界でも技を極めることは容易なことではありません。毎年出品し、精進し続ける刀職者たちに激励の言葉を送りたいと思います。(生野 正)

組合こよみ (平成26年11~12月)	
11月1~3日	東京美術倶楽部にて「大刀剣市」を開催。来場者数1日1,190名、2日972名、3日780名、計2,942名。「明美ちゃん基金」に153,743円集まる
5日	銀座長州屋にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・生野理事・網取理事・持田理事・服部一隆氏・松本義行氏・土子氏夫氏
17日	東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加54名、出来高14,262,700円
17日	東京美術倶楽部にて『刀剣界』第21号編集委員会を開催(企画)。参加者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・飯田慶雄氏・大西芳生氏・大平将広氏・新堀賢将氏・松本氏・土子氏
29日	ホテルオークラ東京にて本阿彌光州氏重要無形文化財保持者認定祝賀会が開催され、組合より深海理事長ほか多数が出席
12月1日	銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第21号編集委員会を開催(小澤正晴氏インタビュー)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・持田理事・大平氏・松本氏・土子氏
4日	冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事が東京都教育庁を訪問、小森勉文化財保護担当官と会談
17日	東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加48名、出来高11,308,000円
17日	東京美術倶楽部にて『刀剣界』第21号編集委員会を開催(校正)。参加者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・新堀氏・土肥富康氏・松本氏・土子氏
17日	清水専務理事・赤荻理事・持田理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に30万円を寄付

第67回刀剣研磨・外装技術発表会表彰式挙行政

刀 剣 界

ブック・レビュー BOOK REVIEW

入門書といえども侮れない

『このひら手帖』図解日本の刀剣

久保恭子 監修 定價一六〇〇円十税 東京美術

久保恭子先生監修の刀剣書である。この本で知ったのだが、現在、刀剣博物館主任学芸員という偉いお立場にあるという。しかし、われわれにとっては日本美術刀剣保存協会に行かずによくお見かけする感じのいい先生である。

さて、この本は、初心者向けのいわゆる入門書ということなのだろう。

まずは日本刀の大きな流れから、直刀・太刀・刀・脇指・短刀・剣・薙刀・槍の説明。次に造込み・茎・鍛え・刃文・刃中の働き・帽子・刀身彫刻と続いていく。さらに、時代による日本刀の姿、奈良時代以前の上古刀から、鎌倉時代初期・中期・末期、南北朝時代、室町時代前期・後期、安土桃山時代、江戸時代前期・中期、幕末期、明治時代以降、それに五力伝と続く。

まあ、この辺りのことは小生もわかってはいるつもりなのだが、次の「刀身を作る」というパートからは、小生には初めて知ることが、知っているつもりだったのに全然わかっていなかったということが多かった。こういうことを書くのは恥ずかしいのだが、仕方がない。

まずは「日本刀の素材」というところで、玉鋼について「狭義の鉄は炭素を吸収させて鋼の炭素量と同等に調節して使います」というところ。「鍛鉄・皮鉄造り」では、刀匠さんはなぜかこの辺りのことは語らないのだが、鍛錬は十五回程度で、工程の前半を下鍛え、後半を上鍛えと言いつつ、この結果、約三万三千枚の層状になり、日本刀が強靱である理由の一つになっている。

さらに「刀身を研ぐ」では、下地研ぎの部分で、伊予砥・備水砥・改正砥・名倉砥・細名倉砥・内曇砥と細かくなっていることも、何かの本で読んだことはあるのだけれども、覚えていなかった。この本にはとてもわかりやすい構成で出ているので、覚えやすい。

またコラムでは、鞘塗りの技法として、変わり塗りを載せている。絞漆、漆下地、種や葉研出し、吸上げ、粉時き、卵殻や貝と多彩である。

最初に「初心者向けの入門書」と書いたが、小生にとっては、知らなかった部分を教えてくれた良い本でした。

(持田昌宏)



私が出会った珍品・優品

富田百合子

「甲冑女子」になる予感!?

鉄黒漆塗切付毛引紺威二枚胴具足

アルバイト先の会社であるカイクリエイツのエントランスに入ると、まず目に入る立派に飾られた鎧。弊社には故前社長のコレクションである江戸時代の鎧が、ディスプレイしてあります。

それが、私の鎧との「きちんとした」出会いでした。それまで、博物館へ行って、特に鎧のコーナーをじっくりと見ることはありませんでした。というか、どちらかというところを避けていました。何やら難しそうだからです。

しかし、数カ月一度発行している社内報の取材対象を考えているとき、上司が、例の鎧の展示の際にお世話になった古美術商の方を取材対象として提案しました。弊社はインターネットサービスを提供している会社です。従って、鎧はまるで関わりのない分野ですが、だからこそいいという判断で、銀座にある甲冑を扱う骨董店を取材させていただくことになりました。網取譲一さんが営む福隆美術工芸です。

網取さんは、全くの初心者である私にもわかるように、会社に飾られている鎧を例にとって丁寧に説明してくださりました。

まず鎧の名称は、その形状などを表現する言葉から成り立っています。例えば、弊社の鎧の名称は、「鉄黒漆塗り切付毛引紺威二枚胴具足」です。すべて合わせて考えると、とても長い名前と思えます。しかし、これらは鎧の形・製作技術・素材などを表していることとすると、なんと親切な名称の付け方でしょう。

鎧のおなかの部分を見てみましょう。「鉄黒漆塗り」は、この部分を黒く塗られていることとを表しています。「切付毛引」は、横に長い板の上部に切り込みを入れて、外観を小札のごとく、凹凸で重なり合っているように見せる手法のことを指します。「紺威二枚胴具足」は、威毛が紺色であること、「二枚胴具足」は、胴部分を前後二つに分割し、片側を蝶番で留めて開閉できるようにしたもので、二枚のパーツがお互いそれでないとお互い合わせられないことを意味しています。ちなみに弊社の鎧は、向かって右側が蝶番になっています。

兜部分の作りは「板物素掛け



威し」と言って、先ほどの「切付毛引威し」とは作りが異なります。この兜には筋状の模様の本数が六十二本もあるもので、手間も時間もかけて苦労して作られたものであることが一目でわかるそうです。家来の兜は早くたくさん作れるものの方がいいので、ここまで丁寧に作られたものはありません。

従って、弊社の兜は高い身分の人のものであることが、作りから判断できるのです。作りが上下で異なるので、途中で本意に混ざってしまったのかと考えがちです。しかし、そうではない、と網取さんは力を込めて言います。「お下がり」と考えるのが正しいようです。

当時の鎧の所有者は、彼の先祖の兜に霊力が宿っていると考え、戦場に出るときはその力を借りたい気持ちで身に着けたのでしょう。そのような考え方をすると、甲冑の上下の作りが異なる点に注目するだけで、さまざまエピソードが浮かび上がってきます。この鎧が、こんなに深いメッセージを含んでいるとは思っていませんでした。

また、この鎧の魅力についても伺いました。網取さんによれば、手を着けられておらず、いい意味で放っておかれていた点がこの鎧の魅力です。飾ることのみに重点を置いた、心ない業者さんによるいい加減な直しが加えられている鎧とは違い、元の状態に近い形で残っているのは貴重なことだそうですね。さらに、陣羽織、着用の際不可欠というわけではない、マンチラと呼ばれる鎧下着、そして手紙・文書などの書類もそろっており、そうした付属品から、この鎧が歴史的資料としてもいかに素晴らしいものかがうかがえます。

取材を終えた今、社のエントランスで迎えてくれる鎧に覚えるのは、「難しそう」と避ける感情ではなく、畏れ多さと親近感が入り混じった不思議な感覚でした。偶然にも今月、大学の授業の環境で鎧を実際に着られる機会があります。壊れやすいため、鎧なんてめったに着ることができないものでないのに、不思議なものです。網取さんへの取材で鎧が身近になった後に、こんなチャンスが巡って



乗馬が趣味の富田百合子さん

てくるなんて。「他の学生は切付毛引なんて言葉は知らないだろうな」と心の中で得意顔になりながら、その日の授業に臨むことになりました。

■富田百合子さんは、聖心女子大学文学部歴史社会学科四年生で今春卒業予定。専攻はフランス文化。二〇一二〜一三年、フランス国立東洋言語文化大学院に留学。博物館学芸員資格も取得中。趣味は乗馬とダンスだそうです。

紀伊国屋

代表 松浦孝子

TEL 0272-108112
TEL 0272-108113
TEL 0272-108114
FAX 0272-108115

イベント・レポート

全日本刀匠会

設立四十周年を記念し伊勢神宮に参拝

昭和五十年に発足しました全日本刀匠会は、本年度で設立四十周年を迎えることとなります。そこで、これに先立ち全日本刀匠会では、設立四十周年記念行事として、去る十一月十一・十二日の両日、伊勢神宮参拝を行いました。

全国から集まった刀職者四十一名は、十一日は豊受大神宮(外宮) 御垣内特別参拝、翌十二日は皇大神宮(内宮) 御垣内特別参拝をさせていただき、その後、事業繁栄を願って御神楽を奉納いたしました。正午を前に一同散会となり、参加した全員が敬虔な気持ちで帰路に着きました。

私も参加いたしましたし、式年遷宮記念せんごう館の拝観や、神宮司庁祭儀部長兼神宝装束部長・小堀邦夫先生



神宮参拝に参加した全日本刀匠会メンバーと職方の皆さん

催事情報

佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43
☎055-975-7278 <http://www.sanobi.or.jp/>

ひとの縁は、ものの縁 — 初公開の矢部コレクション —

日本刀・刀装具・漆工・金工・絵画・陶芸など多くの分野から成る矢部コレクションは、沼津出身の実業家・矢部利雄氏(1905~1996)が半世紀にわたり1代で収集したものです。この度、珠玉のコレクションより約100件を展覧します。

コレクションの中核を担うのは、国宝1点、重要文化財2点を含む刀剣・刀装具です。中でも、徳川四天王の1人として名高い武将・本多平八郎忠勝が愛用したとされる天下三名槍の1つ「蜻蛉切」は、号の由来の、飛んできた蜻蛉が槍の穂先に触れて真っ二つになったという伝説とともに知名度が高く、久々の公開となります。日本刀は矢部氏の収集のきっかけとなったこともあり、特に多くの名品が並びます。

ほかに、根来塗と呼ばれる漆工の一群には、力強さと美しさを兼ね備えた作品がそろいます。

数々の「ひと」と「もの」が結んだ縁でなされた幅広いコレクションをお楽しみください。

会期：1月9日(金)~2月15日(日)

木曜休館
■講演会「矢部コレクションと日本刀」1月31日(土) 講師：渡邊妙子(佐野美術館館長)
■担当学芸員のギャラリートーク 1月24日(土)、2月7日(土)



靖国神社遊就館

〒102-8246 東京都千代田区九段北3-1-1
☎03-3261-8326(代表) <http://www.yasukuni.jp/~yusyukan/index.html>

奉納新春刀剣展 現代刀鑑賞会

靖国神社遊就館において、毎年お正月に「奉納 新春刀剣展」(1月1~17日)として、関東在住の代表的な現代刀鍛冶の作品を展示しておりますが、もっと身近に刀を感じていただきたいという思いの下、現代刀鑑賞会を開催します。

いつもはガラス越しにしか見ることができない日本刀の本当の美しさを、実際に手に取って楽しんでいただきたいと考えています。

鑑賞刀は「奉納 新春刀剣展」の出品刀を供し、作品解説は作者自身で行います。現代作家だからできるナマの声、作品への思いを、皆さまとの交流も含めてお楽しみいただけます。

鑑賞希望者は、全日本刀匠会ホームページなどで募集しています。ぜひ応募ください。

主催：全日本刀匠会関東支部
日時：1月18日(日)午後2時~4時
会場：靖国神社遊就館1階「新春刀剣展」会場内

定員：30名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

■応募について：連絡は全日本刀匠会関東支部支部長・川崎晶平(akihira.kokaji@gmail.com)まで。必ず住所・氏名・電話番号・連絡先を記入のこと。

参加の皆さまは、靖国神社様に2,000円の玉串料をお納めください。

ご不明な点は上記または遊就館展示課までご連絡ください。

日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼンス研究調査委員会

鉄文化財にみる日本の独自技術の学際的研究フォーラム 第2回研究会「日本の火縄銃に用いられた材料及び製造・加工技術の検証」

「鉄文化財にみる日本の独自技術の学際的研究フォーラム」は、文理融合した学際的研究体制で鉄文化財に関する実証的な学術研究に取り組むことを目的に昨年発足しました。

伝来以降、300年にわたり日本独自の発展を遂げた貴重な鉄文化財である火縄銃の材料および製造・加工技術をテーマに、日本銃砲史学会との共催にて第2回研究会を開催します。参加費無料、事前申し込み不要です。興味のある方はぜひご参加ください。
日時：1月20日(火)13:00~17:15
会場：鉄鋼会館812号室(中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館8階)

プログラム(演題・講師)：
日本における火縄銃の受容と定着 宇田川武久(国立歴史民俗博物館 名誉教授)

日本の火縄銃の材料と製造技術の検証 藤安将平(刀匠)

工学的金属組織観察が語る火縄銃の製法と材質 中江秀雄(早稲田大学 名誉教授)

パルス中性子イメージング研究の現状：文化財の非破壊分析への可能性 鬼柳善明(名古屋大学)

火縄銃の製造方法解明のための炭素量の異なる鉄鋼材料のパルス中性子測定 磯野真理子(名古屋大学 大学院修士1年)

パルス中性子及び高エネルギーX線を用いた日本の火縄銃の非破壊分析 田中真奈子(東京藝術大学)

総合討論
問い合わせ先：田中真奈子(東京藝術大学アートイノベーションセンター) ☎050-5525-2486 E-mail: tanaka.manako@pc.geidai.ac.jp

による伊勢神宮(正式には神宮)のお祭りや、二十年に一度の式年遷宮についての貴重な講話を拝聴しました。今回の参宮により、遷宮によって先人より受け継がれてきた技術継承の大切さやその意味などを学ぶことができ、これからの技術研鑽に努めていこうと決意を新たにしました。

なお、十一日夕刻から開催しました懇親会では、神宮の神宝装束部の方々をお招きし、三上貞直会長の挨拶、重要無形文化財保持者本阿彌光洲先生の乾杯の発声の後、懇談の機会が持たれました。語らひは時間が過ぎるのも忘れ、夜遅くまで続き、刀剣談義に花が咲きました。

全日本刀匠会は設立四十周年に向け、今後も記念行事を企画しております。皆さまには一層のご指導とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。(月山貞伸)



シバヤ大学「日本刀講座」の受講生と関係者

シバヤ大学にて日本刀講座開講 若手刀剣人集団「鉄芸」が企画

十一月十六日、東京・表参道にあるバツアートギャラリー(Bara TSU ART GALLERY)のエンターランスに日本甲冑が並び、通りかか

る多くの人々を驚かせた。日本刀の啓蒙普及を狙い、「シバヤ大学」が「鉄芸」(株式会社studio仕組)とのコラボレーションにより、同大学初めての日本刀初心者講座が実現したのである。

鉄芸は日本の素晴らしい伝統文化を楽しく学ぼうというグループで、特に「武士の魂」と言われる日本刀を扱う若手作家・職人・美術商の有志が中心となって日本刀の啓蒙普及を目的に初心者向けの鑑賞会などを企画している。

「日本刀を見たことも、触ったこともない人々に日本刀の魅力を伝え、後世に伝える足掛かりとする」との理想の下、今までは小さなイベント会場で鑑賞会を行ってきたが、学校法人の授業として日本刀をカリキュラムにしたい!



刀を手に取って鑑賞する受講生

の希望が当初からあり、多くの支援を得て、同団体のシンボルである「日本刀伝習所」の看板がギャラリー入り口に掲げられることになったのである。

講座のタイトルを「日本刀の魅力を読み解く」私たちが受け継ぐものとは?」として告知を行ったところ、定員三十名のところになんと百名を超える応募が殺到

し、会場は立ち見も含めて多くの来場者で賑わった。

まず飯田高遠堂の飯田慶雄氏が「はじまりの挨拶」として、日本刀に一礼し、鞘を払うと、会場の空気が一瞬にして引き締まる。講義は日本刀の概要・歴史・精神性などに及び、「日本刀とは単なる武器ではなく、優れた美術工芸品である」と締めした後、実際に手に取った鑑賞が行われた。

参加者のほとんどが、生まれて初めて本物の日本刀を手に持つ人々、おっかなびっくりに鑑賞の作法を教わりながら、各人が静かに鑑賞を進める。

続いて、刀剣の鍛錬、研磨、白鞘作成といった日本刀製作の各工程を、現在活躍している刀匠の右田國壽氏、研師の森井鐵太郎氏、鞘師の森井敦史氏らが実演をしつつ解説した。

最後に、アートディレクターの小熊千佳子さんが加わり、この日にお披露目された日本刀と3Dプリンターで製作したアクリル製澄鞘(Sunrise)を例に、伝統工芸・伝統文化と現代につながるデザインの面白さについて語り合った。

授業終了後も、閉館の六時まで来館者が途絶えることなく、多くの人々が初めて触れる本物の日本刀に感嘆の声を上げ、熱心に質問をぶつけていた。

授業の最後に行われたアンケートによると、参加者の大半は三十年代から四十年代で、授業の評価も見事に全員が最高評価をつけたとのこと。大学担当者によるアンケートで、非常に珍しいことだろう。

講師の飯田氏いわく「百聞は一見に如かず。老若男女を問わず、名刀を実際に手にしてもらえば、その素晴らしさはおのずかと伝わります。将来は小学校などでも同様のイベントを行えばと思っています。報告をお寄せください。」

このような草の根活動が将来の愛刀家を作り、伝統文化の担い手を育成する大きな力となるだろう。

がんばれ、鉄芸!!

■鉄芸 = <https://www.facebook.com/groups/31288605820384/>

■studio仕組 = <http://www.studio-shikumi.jp/>

■シバヤ大学 = <http://www.shibayamiviv.net>

※刀剣に関して、このようなユニークな啓蒙活動をしている団体・個人を紙面で紹介していきます。ぜひ情報をお寄せください。

刀 劍 界

平成27年1月15日発行(隔月刊)

平成27年(2015) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

毎月20日開催
西日本甲冑交換会
 出品随時受付中
 岡山県岡山市北区柳町1-4-8 2F
 TEL 03-5350-1851
 携帯 090-3331-1979
 日本刀旗谷 篠谷 大輔

毎月11日開催
九州刀剣会
 出品随時受付中
 福岡市博多区博多駅前2-20-11 大博多ビル
 TEL 03-5350-1851
 携帯 090-3331-1979
 日本刀旗谷 篠谷 大輔

飯田高遠堂
 代表取締役 **飯田慶久 慶雄**
 東京都新宿区下落合3-17-33
 TEL 03-3395-1133
 携帯 090-3320-8196
 FAX 03-3371-0167
 URL <http://www.idakoendo.com>

(株)城南堂古美術店
 代表 **田中勝憲**
 東京都目黒区上目黒4-31-10
 携帯 090-3320-8196
 FAX 03-3371-0167

(株)日本刀剣
伊波賢一
 〒105-0001
 東京都港区虎ノ門3-18-11
 TEL 03-3434-4432
 FAX 03-3434-4432

やしま
齋藤雅稔
 東京都西東京市柳沢6-18-10
 TEL 042-4463-5310
 FAX 042-4463-7955

やしま
齋藤隆久
 東京都西東京市柳沢6-18-10
 TEL 042-4463-5310
 FAX 042-4463-7955

株式会社 眞玄堂
 〒101-0044
 東京都千代田区鍛冶町1-7-17
 TEL 03-3252-1784
 FAX 03-3251-1441

刀剣市場野田会 毎月3日・19日開催
株式会社 美術刀剣松本
松本富夫・松本義行
 千葉県野田市清水1-19-11
 TEL 04-7712-1195
 FAX 04-7712-1195
 メール info@tokken-matsumoto.jp
 URL <http://www.tokken-matsumoto.jp>

拵合せ致します
日本刀鞘師 水野美行
 〒160-0002 東京都新宿区坂町18
 TEL 03-3353-8810

奈良県無形文化財保持者
月山貞利
 〒633-0073
 奈良県桜井市大字茅原2-28-18
 TEL 0744-4421-3230
 FAX 0744-4431-7330

株式会社 刀剣柴田
柴田光隆
 〒104-0061 東京都中央区銀座5-16-18
 TEL 03-3573-2801
 FAX 03-3573-2804
 URL <http://www.tokenshibata.co.jp>

丸英美術刀剣店
瀬下明 瀬下昌彦
 栃木県小山市乙女3-17-30
 TEL 0285-4510-158

刀剣ギヤラリー 樹林
森野幸男
 〒803-0812
 北九州市小倉北区室町2-12-15
 TEL 093-5611-0449

美術刀剣 勝武堂
 店舗 東京都中野区本町4-45-15
 TEL/FAX 03-3381-3071
 URL <http://www.shoubudou.co.jp>

赤荻刀剣店
赤荻稔
 〒102-0264
 茨城県下妻市下妻乙1-72の5
 TEL 0296-144-2643

つるぎの屋
冥賀亮吉典也
 東京都北区西ヶ原4-35-11
 TEL 03-3576-1175
 FAX 03-3576-1841

刀剣・書画・骨董 株式会社 和敬堂
土肥豊康久
 新潟県長岡市柏町1-12-16
 TEL 0258-3331-8511
 FAX 0258-3331-8511
 URL <http://www.wakeido.com>

銀座盛光堂 齋藤恒
 東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
 TEL 03-3569-2251
 URL <http://www.ginzaseikodo.com>

銀座誠友堂
 中央区銀座5-1-1 銀座ファイブ2階
 TEL 03-3558-8001
 URL <http://www.seiyudo.com>

銀座長州屋
 名刀のご購入は通販サイト「刀の蔵」
 倉敷刀剣美術館(刀剣佐藤)
 代表者 **佐藤均**
 〒710-1101
 岡山県倉敷市茶屋町1-73
 URL <http://katanokura.jp>

刀剣研師 **白木良彦**
 〒135-0045
 東京都江東区古石場1-12-17
 TEL 03-3643-3228

美術刀剣松山 福岡光男
 愛媛県松山市松前町3-13-11
 TEL/FAX 089-947-5177

刀剣古美術 優古堂
 代表 **三浦優子**
 東松山市高坂7-69-15
 TEL 0493-351-5559
 FAX 0493-351-2468

生きた研ぎをしたい
 刀剣研師 **黒田守寿**
 福岡市博多区東雲町1-4-15
 TEL 092-5581-1728

売買、加工及びご相談承ります
大阪刀剣会 吉井唯夫
 〒542-0073
 大阪府中央区日本橋2-17-11
 TEL 06-6631-1221
 FAX 06-6631-1221

甲冑・刀剣力装具 福隆美術工芸
網取譲一
 東京都中央区銀座2-11-4
 TEL 03-3541-8209

古美術刀剣 後藤
後藤一乗
 〒462-0059
 名古屋市中区駒止町2-33-3
 TEL/FAX 052-916-2583

刀剣・小道具・鍔 刀剣杉田
 代表 **杉田侑司**
 豊島区池袋2-49-15
 TEL 03-3980-1146
 FAX 03-3980-1146
 メール info@token-ne.com

刀剣研師 **墨賢藏 墨誠一**
 東京都練馬区関町北2-17-15
 TEL/FAX 03-3928-0062

刀剣・書画・骨董 虹雅堂美術舗
笠原泰明
 〒142-0063 品川区荏原2-17-13
 TEL/FAX 03-3781-6582

刀剣小道具 中冑、売買、工作及び相談承ります。
 株式会社 **むさし屋**
 代表取締役 **猿田慎男**
 〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
 TEL 072-2251-2880
 FAX 072-2251-2880
 URL <http://www.musashiya.co.jp>

永和堂
 朝倉万幸 朝倉忠史
 長野県長野市南町1-13-6
 TEL 026-1228-10001

刀剣 飯塚
飯塚賢路
 〒337-0015
 さいたま市見沼区蓮沼1-004-11
 TEL 048-6688-2001
 FAX 048-6688-2001

株式会社 泰文堂
川島貴敏
 東京都中央区銀座4-3-11 松崎ビル4階
 TEL 03-3563-2551
 FAX 03-3563-2553

尾崎刀剣研磨處
 刀剣研師 **尾崎明幸**
 大阪府大東市寺川2-1-31

刀剣研師 **森井鐵太郎**
 〒350-1133
 埼玉県狭山市市原3-116-180
 TEL 04-1295-2163
 FAX 04-1295-2163
 メール kennatei@gmail.com

株式会社 **金丸刀剣店**
金丸一三
 東京都大田区東雲谷2-28-10
 TEL 03-3728-1332

美術刀剣・刀装具・刀剣用具の売買
 株式会社 **コレクション情報**
 代表取締役 **村上和比子**
 岐阜県岐阜市西部本郷1-1-49
 TEL 058-1274-1196
 FAX 058-1273-7369
 URL <http://www.samurai-nippon.net>

横山美術 横山忠司
 札幌市中央区南三条東1-1-6
 TEL 011-251-7652

研誠堂 石塚孝夫
 〒113-0034
 文京区湯島1-2-11
 TEL 080-5473-0055

浅草観音裏
 美術・骨董・書画・工芸・刀剣・鍔
(株)晴雅堂清水
 〒111-0032 台東区浅草2-1-30-11
 TEL/FAX 03-3842-3777

服部美術店
 東京都中央区日本橋3-5-12・2F
 TEL 03-3274-5170

もちだ美術
持田具宏
 さいたま市中央区上落合1-9-4 447
 TEL 048-855-4792

新堀美術刀剣
新堀孝道・徹 篤史・賀将
 横浜市旭区さしが丘2
 TEL 045-364-2893
 URL <http://www.loence.jp/~sinbori>

Taiseido 大西芳生
 URL <http://taiseido.biz>
 TEL/FAX 044-271-8158

平成名刀会
 〒110-0003
 台東区根岸2-12-4 根岸相馬ビル
 TEL 03-3874-9701
 URL <http://www.heiseimeitokai.com>